

山口大学農学部同窓会東京支部

皆様いかがお過ごしでしょうか。今年に入って世界中が新型コロナウイルスという思わぬ感染症の影響を大きく受け、すべての方々が生活に支障をきたしておられることと思います。本感染症に患われた方々に心からお見舞い申し上げます。今後も引き続き、感染拡大防止のために一人一人が気を緩めずに過ごしていくことが大切であるとともに、経済活動や教育活動などとの両立も大きな課題となっています。本同窓会も、一丸となってこの苦境を乗り越えていく所存です。このような状況だからこそ、離れた母校や同窓生の近況をお伝えできる同窓会活動を、出来る形で活性化していきたいと考えています。本号へも様々な話題が届いていますので、お楽しみいただけますと幸いです。

私の軌跡 No.5

母校で学び、各界で活躍された同窓の方々から波乱に満ちた、真摯な軌跡を語って頂きます。

前原 信敏 先生

獣医学科12回生

1960年、沖縄から文部省選抜の国費留学生として獣医学科に入学した。3学年の12月、北里研究所から赴任して来られた戸田光敬先生の推薦を受け、研究所の入所試験を受けた。北里研究所には戸田先生の上司であった斎藤保二先生が部長（後に副所長）でおられ、仕事外でも大変お世話になった。配属されたのは慶大医学部出身の牧野慧先生の研究室であった。同期に入所した3人が牧野研に属したが、その1人の小山弘之はその後北里大学獣医畜産学部に移り、伝染病学教授、学部長となる。牧野研のテーマは麻疹、耳下腺炎ワクチンの開発であった。



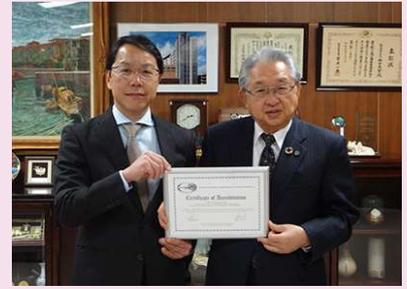
私は10年間サル実験責任者としてこれらの開発に関わった。扱ったサルは数百頭に上る。牧野研では麻疹弱毒AIK-Cワクチンを開発したが、当時、世界で優れたワクチンと見做されていた米国のshwarz株、ユーゴのEdmonston-Zagreb株との比較実験をパストール研究所の研究者たちがアフリカのトーゴで実施し、Lancet(1989)に発表した。結果はAIK-Cワクチンが弱毒性と免疫原性の両面において傑出して優れていた。AIK-C株はイランのRaji研究所に無償提供され製造されている。また、ベトナムにはJICAを通じ、数10億円の無償援助を行って製造されており、国際親善にも大きく寄与している。私たちが所属するウイルス部は研究棟の5階にあったが、3階には後にノーベル賞を受賞する大村智先生が抗生物質の研究室にいた。

入所して3年目に、東大伝染病研究所の所長でインターフェロンの発見者である長野泰一先生が定年となり研究所の部長に迎えられたので、仕事の合間を縫って長野室に出入りした。1974年12月、北海道大学獣医衛生学教授の梁川良先生が主査でインターフェロン研究をテーマに獣医学博士の学位を取得した。翌75年4月、長野先生の紹介でピッツバーグ大学公衆衛生学大学院のHo先生の研究室へ2年間留学し、インターフェロン研究と学生の修士論文を指導した。Ho先生の研究室への留学は、私の前に家衛試の甲野雄次先生（家衛試部長、東京農工大教授歴任）、私の後に北大医学部細菌学教室から皆川友紀先生（後に教授）が続いた。留学生仲間には昭和医大内科学教授となった鈴木晟蒔先生、金沢工業大学教授になった水村和正さん、サントリーの研究所で活躍した中里紘さん等が居た。また、国費留学の先輩である真栄城朝敏先生が経済学部教授で居られた。先生は週末になるとほぼ毎週私たち留学生仲間をゴルフに連れて行き、夜は奥様の手料理でもてなして下さいました。

帰国してインターフェロン研究室の室長となり製剤化の研究に取り組み、ヒト2倍体細胞を使用して製造方法を確立したが、製造には多額の費用がかかることから断念した。研究室には研究生を受け入れ2人の医学博士と衛生学博士が誕生する。その一人の中山哲夫先生は感染制御科学府（大学院）長となった。その後、北里研究所で、世界で初めてとなるB型肝炎ワクチンのチンパンジー試験を3ロット3年に亘って担当し、そのさなかに開発中の牛異常産ワクチンの、妊娠牛12頭と子牛50を使った場内試験も引き受ける。試験終了後動物用ウイルス製剤全般を担当する第1部門長となったが、1994年4月北里大学獣医学部微生物学教室教授に転任し、2006年3月定年となる。赴任してすぐに遺伝子研究環境を整え、佐藤講師（現教授）は豚のブドウ球表皮剥奪毒素のクローニングに成功する。私が主導してネコインターフェロン α 遺伝子の8分子種と、続いてイヌインターフェロン α 遺伝子の4分子種をクローニングした。イヌインターフェロン α 遺伝子は北里研究所に働きかけて実用化に向けた研究が2004年に開始され、2013年に遺伝子をイチゴ遺伝子に組み換えた、ユニークなイヌ歯周病予防薬「インターベリー α 」が誕生する。教室からは4人の過程博士と4人の論文博士が誕生した。在任中に附属牡鹿牧場長、獣医学研究科（大学院）長を併任した。目まぐるしい現役時代ではあったが楽しいことも多かった。

母校便利「アジア初！EAEVE獣医学教育認証を取得しました」

同窓会・東京支部の皆様、新型コロナウイルス感染拡大もようやく落ち着いてきましたが、いまだ多くの方々に対応などで多忙な日々を過ごされているのではないのでしょうか。さて、共同獣医学部は、2019年6月に、欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）の訪問審査を受けました。私たちが共同獣医学部を設置した平成24年（2012年）から、EAEVEの獣医学教育認証を取得することは悲願であり、組織体制の構築、教員数の増加、カリキュラムの変更、施設の新設などを行ってきました。準備当初は、周囲から、本当にできるのか？無理じゃないか？と疑問の声もあがっていましたが、8年目にして何とか受審にこぎ着け、2019年12月に開催された専門委員会で私たちの認証取得が決定しました。これは、アジアで初めての取得となります（詳細は別添パンフをご覧ください）。



EAEVE認証証書
岡学長(右)、佐藤学部長(左)
2020年2月19日

残念ながら、今秋は山口大学で開催予定の獣医学会がWeb開催となり、獣医学部同窓会臨時総会が中止となってしまいましたが、ホームカミングデーは実施予定となっています。是非、その際には卒業生の皆様に吉田キャンパスへお越しいただければと思います。皆様に、お会いできること楽しみにしています。（共同獣医学部長 佐藤晃一）

5年ぶり食品化学研究室同窓会 ソフトボール付き

昨年10月5日（土）に、旧農芸化学科（現生物機能科学科）食化同窓会が湯田温泉でありました。恩師のお祝い（小林先生：米寿、加藤先生：喜寿、松富先生：古希）の大宴会となりました。翠山荘には、先生方と86名の卒業生（昭41卒の木本先輩を筆頭に、札幌～鹿児島まで）と7名の在校生の97名が集い、世代別に近況を報告後、各先生へのお祝を。二次会の福の花の大広間では、先生方と卒業生（52名：ここから参加の方も）と在校生（7名）の62名が世代入り乱れ、笑い声が途絶えることはなく。その後、三次会、・・・湯田の夜を楽しみました。今回は、同窓会に先立ち、在校生との事前交流をかね、13時から大学グラウンドで、約30名で、卒業生の有志vs在校生+先生（加藤先生、阿座上先生）のソフトボールをやりました。小林先生、松富先生、十数名の卒業生の応援のもと、大笑いしながらお互いの衰えも確認しあいました。我々東京の有志（6名）は、当日早朝の移動から、バリそば、ソフトボール、温泉、宴会ととても有意義な週末でした。阿座上先生、在校生の皆様、楽しい企画をありがとうございました。次回も参加したいと思います。（村木祥文 C20, H2卒）



山大OB・OG会(東京)便利

恒例の山大有志同窓会を麻布十番のさぬき倶楽部にて2月19日に開催しました。総勢11人（農学部6名）の会でしたが、大変盛り上がり楽しい時間を過ごすことができました。宴会時間を延長したため、にゃんこ大戦争への寄付額が削減されたこと、山際君が急遽大臣との打合せのため参加できなかったことが想定外でしたが、他学部の卒業生ともゆっくりと交流できました。若干平均年齢が高めですので、若い世代の新規参加者をお待ちしております。様々なバックグラウンドの方が参加しております。若い方にも刺激的な会になると思いますよ。次回は是非ご一緒しましょう。



（中嶋久士 C23, H5卒）

令和元年度東京支部 同窓会開催報告

2019年度農学部および共同獣医学部東京支部合同同窓会を2019年11月30日(土)、赤坂エクセルホテル東急(東京都千代田区永田町)で特別参加の佐藤晃一共同獣医学部長をお迎えして開催いたしました。出席者の内訳は、獣医学科卒が12名、農芸化学科・生物資源科学科卒が7名の計19名でした。また、2名のお子様(6歳、9歳)連れでの出席もあり、総勢22名で同窓会は和やかな雰囲気の中幕を閉じました。

<総会>

深町輝康会長(V16)から東京支部同窓会の活動状況等について報告がなされました。

(1)今年度のニューズレターは第5号を7月24日付で発刊・配布しました。内容もより充実化を図りました。

(2)共同獣医学部2期生が卒業しました。共同獣医学部同窓会(青山会)は2018年3月に発足していますが、その目的は在校生、卒業生および教員との交流・連携を深め、母校の発展に寄与することです。東京支部もその目的に向かって積極的に活動して参ります。共同獣医学部のHPに「共同獣医学部同窓会(青山会)」のリンクが貼られていますが、そのHPに2019年10月3日に発行された青山会会報第一号が掲載されているので、ぜひ覗いて下さい。

<佐藤晃一共同獣医学部長の講話>

共同獣医学部が設置された2012年から欧米基準の獣医学教育実施を目的に欧州獣医学教育機関協会(EAEVE)の認証取得を目指し、8年間にわたって準備をしてきました。その準備課題は、組織体制の構築、カリキュラムの変更、実習施設の開設と実習の充実化など多岐にわたり、大変苦勞しましたが、EAEVEの認証取得に必要な作業が全て終了することができました。そのため2020年を目標にしていた認証申請は先取りして本年(2019年)に変更し、2019年6月9日~14日に、EAEVEの訪問審査を受けました。その審査結果は本年12月に通知の予定であり、認証の吉報が届くことを切に願っている状況です。訪問審査の状況および新設された実習室などに関しても詳細にご説明いただきました。皆、母校とは思えない充実した教育環境の変貌に感激し、また、EAEVE認証取得に対する先生方の尽力に感銘を受けました。

<小講演会>

演題名:アカデミア創薬を志向するケミカルバイオロジー研究

講師:慶応義塾大学理工学部生命情報学科 井本正哉教授(C8)

要旨:がんは昭和56年以降わが国の死亡順位第一位の病気であり3人に1人ががんで死亡しています。また、高齢化に伴い、神経変性疾患患者の数も増加しており、アルツハイマー症患者は150万人、パーキンソン症患者は10万人以上にもなります。このがんや神経変性疾患には有効な治療薬はまだ存在しません。また、それらの病気の発症のメカニズムもまだまだ不明な点が多いのが現状です。私たちはがんや神経変性疾患の治療薬の開発と発症メカニズム解明に向けて研究を展開しています。

まず、これら疾患の治療薬になりそうな候補化合物を探す必要があります。地球上には100万種以上の微生物が生息しており、それらはそれぞれ人知の及ばない多様な構造を有した化合物を生産しています。これらのなかには、抗生物質、制がん剤、高脂血症治療薬、免疫抑制剤などとして様々な疾患治療に使用されており、また、数年前のノーベル賞受賞者である大村智博士が開発された原虫治療薬も元々は微生物が生産する化合物でした。従って多様な構造と多彩な活性を有する微生物の生産物の中にこそ、がんや神経変性に有効な治療薬が存在していると考えています。

次に、どのようにして治療薬になるような化合物を探せばよいのでしょうか?そのためにはまずこれらの病気の細胞モデル系を構築します。私たちはがんや神経変性疾患の患者さんで見られる変異遺伝子を導入した細胞を構築したり、最近では患者さん由来のiPS細胞を使ったりすることで病気の細胞モデル系を構築し、そこに微生物の生産する化合物を作用させます。化合物処理による細胞形態、増殖速度、細胞生存率の変化を検出することで治療薬の候補化合物を探しています。

次に、探索によって見出された治療薬の候補化合物がどのようなメカニズムでがんや神経変性疾患のモデル細胞に効果を発揮するのかを検討します。そのためにはまず化合物が細胞内のどのようなタンパク質を標的とするかを調べます。さらにそのタンパク質をノックダウンするなどして、その機能を明らかにすることで疾患に関わるメカニズムに迫るだけでなく、なぜその薬が効果を発揮するのかを知ることができます。

このように私たちは化合物によって疾患の治療を目指すだけでなく、化合物を用いて生命現象を解明しようとしています。このような研究分野はケミカルバイオロジーと呼ばれています。アメリカにおいては大学で開発された化合物が実際に新薬となる比率は全薬剤の約半数を占めます。我が国はまだその比率は低く、今後のアカデミア発創薬研究の活発化が必要とされる中、ケミカルバイオロジーはアカデミアがおこなう創薬研究の中核としてその発展が期待されています。(要旨 井本正哉 記)

感想:井本先生の研究室ではがんや神経変性疾患に対する新薬の探索研究において治療効果と作用機序の解明に細胞モデル系を構築し、それを活用したケミカルバイオロジーという最先端の技術を用いた新薬探索研究に取り組まれております。更に、この新薬の探索研究に平行して生命現象の解明にも挑戦されています。この研究の成果として有望な新薬も幾つか見出したとのこと、今後の研究の進展が大いに期待されました。

<懇親会>

幹事の久保田徹氏(C2)による司会のもと、長井伸也氏(V29)の乾杯の音頭で懇親会が開始されました。暫くの歓談の後、出席者一人ひとりから近況のほか趣味や健康法等についてのお話を聞きながら和やかな楽しい一時を過ごしました。健康法では市民民謡同好会で民謡を楽しまれております掛 勉氏(V9)の民謡大声健康法が注目を浴びました。口は指三本が入る大きさに開いて、民謡を歌うとのこと。それを実演で披露していただきました。その声の大きさに皆、驚嘆するとともに熱演に拍手喝采が起きました。締めは、佐藤晃一共同獣医学部長にお願いし、東京支部同窓会の活動に対する激励のお言葉をいただきました。来年度も元気で再会することを誓い合い閉会しました。

(文:事務局 桑野昭)





獣医の前進は山口県立獣医畜産専門学校ですが、その跡地は現在の山口県獣医師会館となっています。会館の入り口にある「山口獣医専跡」と記した石碑のお写真を、獣医学科外科学教室名誉教授の中間實徳先生がお届け下さいました。この石碑の設置は、獣医専3回生の本好茂一先生のご提案で中間先生が皆に呼びかけられ、多くの寄付が集まり実現し、2001年3月4日に建立除幕式が行われたそうです。貴重なお写真をお送り下さり、ありがとうございました。

コロナウイルス対策緊急学生生活支援 給付型奨学金寄附のお願い

山口大学は新型コロナウイルス感染症の影響による学業継続困難な学生に対し、山口大学基金を活用した「コロナウイルス対策緊急学生生活支援給付型奨学金」制度を新設し、学生一人当たり10万円(2万円/月×5か月、返済を要しない)の経済的支援を行うことを決定しました(令和2年5月14日、山口大学ホームページ)。学資負担者の経済面での急変やアルバイト等の収入減で生活が困窮状態にある多数の学生への支援が急務の状態とのことです。

山口大学本部(基金事務局)より、卒業生、同窓会、企業、団体、教職員、地域の方々へ支援を呼び掛けております。厳しい状況下で必死に勉学、研究に励んでいる日本の明日を担う後輩達へ、ぜひ在京同窓生の皆様からの温かいご支援をお願い申し上げます。

山口大学基金事務局の寄附案内

- * 個人 1口5千円～
- * 法人、企業、団体は1口1万円～
- * 寄附の方法: 詳細は山口大学ホームページ参照(右のQRコードでもOK)
 - ①ホームページにアクセスし、指定の寄附申込書に必要事項を入力する。
 - ②払い込み用紙が郵送される。
 - ③払い込み用紙で、金融機関より送金。
 - ④税法上の優遇措置(税額控除適用)有り。※基金事務局へ連絡の上、インターネットバンキングでも送金可能。



お問い合わせ先:

- * 山口大学基金事務局(基金担当部長 中尾淑乃)
電話:083-933-5631 メール: kikin@yamaguchi-u.ac.jp
- * 在京山口大学農学部・獣医学部合同同窓会事務局(会長 深町輝康)
電話:047-470-8976 メール: smile-vet@chic.ocn.ne.jp

令和2年度同窓会中止のお知らせ

令和2年11月に予定していました東京支部同窓会(総会・小講演会・懇親会)は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、中止することといたしました。大変残念ですが、来年度は更に皆様に参加しやすい有意義な集まりになるよう、時間をかけて計画を立てていきますので、ご期待ください。次回開催は令和3年11月の予定です。

会長 深町 輝康 (V16,S43卒) : smile-vet@chic.ocn.ne.jp
幹事 久保田 徹 (C2,S47卒) : tkubota39@m7.gyao.ne.jp

事務局 桑野 昭 (V21,S48卒) : kuwa5ayt@green.ocn.ne.jp
吉田 恵子 (V48,H14卒) : keicho@mth.biglobe.ne.jp
平川 由佳 (V53,H19卒) : yspiyopivo@yahoo.co.jp

編集後記

ステイホームの日々を過ごしているうちに季節が移り変わり梅雨入りし、夏もすぐそこまで近づいてきました。皆様それぞれが大変な状況の中、お蔭さまで第6号紙を発行出来たことに感謝申し上げます。また大勢の仲間と気兼ねなく集まれる日は少し先になるかもしれませんが、「離れていても心はひとつ」です。皆様のご健康を願っています。

事務局: 吉田

発行人/山口大学農学部・共同獣医学部同窓会東京支部